

富山城跡

現地説明会資料

富山市教育委員会埋蔵文化財センター

1. 調査の状況

3,380㎡を対象に、上・中・下層のうち中層まで調査完了した。

2. 発掘調査の成果

(1) 明治～昭和 (150年前～60年前) 近現代の建物跡

- 旧総曲輪小学校 (昭和 25 (1950) 年建設) などの明治～昭和の建物の基礎痕跡を確認。
- 明治のごみ穴出土の木札に、表「富山地方裁判所検事局御中」裏「大阪控訴院検事局」の記載。明治に三ノ丸跡地に富山地方裁判所が設置されていたことを裏付ける。



「富山地方裁判所」の木札

(2) 江戸中期～後期 (300～150年前) 富山藩期富山城三ノ丸の内部構造

●馬屋の痕跡か！?

- 2区南東端に、江戸後期 (18世紀後半～19世紀) の大型土坑 (幅 6m×長さ 18m以上) とそれに伴う柵列 (1.2m間隔) がある。幕末期の『越中富山御城下絵図』 (安政元 (1854) 年) では、「馬場」 (図 1 →) と描かれている箇所にあたり、馬屋の可能性がある。



大型土坑 (馬屋?) と柵列

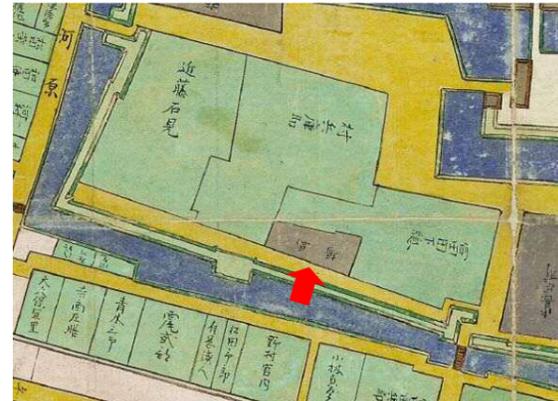


図 1 『越中富山御城下絵図』 (部分) [富山県立図書館蔵]

●用途不明の窪地は採土跡か！?

- 江戸中期 (18世紀初頭) に埋没した広い窪地 (幅 18.5m、深さ 0.75m、長さ 20m以上) が 2区北側中央にある。富山城下町内にも、四角く土を採掘した跡があり、造成用の土を取った採土跡の可能性がある。

(3) 江戸前期 (350～300年前) 重臣屋敷の屋敷境

●重臣屋敷の屋敷境は、室町時代の地境を踏襲！

- 2区南東に、江戸前期 (17世紀後半) の富山藩重臣屋敷地の境目を示す区画溝 1 (幅 1.3～1.8m、深さ 0.3～0.5m) がある。区画溝 1 の真下で、室町後期の地境を示す区画溝 6 が見つかった。このことから江戸前期の重臣屋敷境は室町後期の地境を踏襲していたことが分かる。



区画溝 1 (黄)・区画溝 6 (桃)

(4) 戦国時代後期～江戸時代前期 (450～350年前) 中世富山城・城下町の遺構

- 戦国後期～江戸前期 (16世紀後半～17世紀前半) の東西方向の溝が、区画溝 4⇒区画溝 3⇒区画溝 2 の順に作られた。中世富山城の城内か城下町の区画溝と考えられる。

●中世富山城の堀跡か！?

- 2区南端で南東から北西方向へ流れる河川跡があり、北西 120m の青葉幼稚園建設予定地へ延びている。
- 堀 1 (幅 11.5m、深さ 2.4m、長さ 22m以上) は、この河川が埋没した後に掘られた。堀底から 16 世紀末～17 世紀初頭の陶磁器が出土したことから、堀は中世富山城の時期に掘られ、慶長 10 (1605) 年慶長期富山城築城に伴い、一気に埋めたと考えられる。

●江戸前期の古絵図に描かれていない堀跡は、神保氏築城の中世富山城の堀跡か！?

- 4区にある堀 2 (深さ 1.75m、幅や方向は不明) は、記録にある天保 2 (1831) 年の大火 (浜田焼) 後の整地土の下から見つかった。堀の底付近には、焼土層があり、放射性炭素年代 (¹⁴C) 測定の結果、戦国後期 (16 世紀後半) の年代が示した。このことから、この堀 2 は、天文 12 (1543) 年頃に築かれた中世富山城あるいはその城下町を囲む堀跡の可能性がある。
- 堀は 1800 年頃自然に埋没したとみられる
- しかし、江戸前期の城郭を描いた古絵図 (『越中国富山古城之図』 (正保 4 (1647) 年)・『万治年間富山旧市街図』 (寛文 3 (1663) ～6 年)) にこの堀は描かれていない。



堀 2 の堆積層断面 (西壁)

(*この堀は 28 年度調査で詳細を解明する予定)

(5) 戦国前期 (550～450年前) 有力者の居館跡

- L 字形に曲がる堀 3 (幅 4.1m、深さ 1.8m、東西の長さ 50m以上) は、有力者 (武家か?) の居館敷地を囲む堀跡で、それ以前の区画溝よりも深い。

(6) 室町後期 (600～550年前) 集落の区画溝

- 区画溝 6・7 (幅 1.1m、深さ 0.6m)、区画溝 8 (幅 2.4m、深さ 1.2m)、区画溝 9 がある。区画溝 7 は 15 世紀前半 (放射性炭素年代測定による) である。
- 平成 17 年度の城址公園東部 (現在の千歳御門地点、図 2 ●) の発掘調査で、室町後期～戦国前期の武家居館に関連した遺構が見つかった。今回の遺構の年代はそれとほぼ同じことから、ここは武家居館周辺に営まれた集落地であり、集落内は溝によってきちんと方形に区画されていたことが分かった。

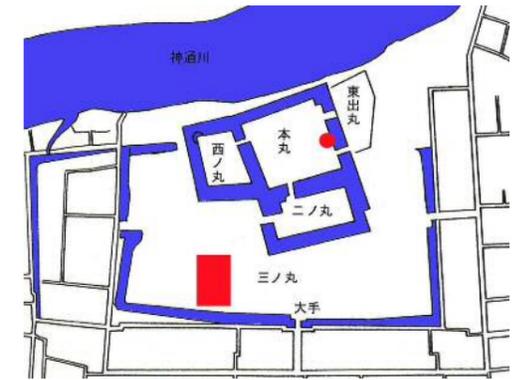


図 2 寛文期富山城縄張図

富山城略年表

	年号	できごと	
近代	昭和 25 (1950)	総曲輪小学校 (木造) 建設	
	明治 14 (1881)	富山区裁判所が旧三ノ丸に移転	
江戸	天保 2 (1831)	三ノ丸侍屋敷の一部を除き全焼	富山藩期富山城
	寛文元 (1661)	旧富山城を修復し、富山藩城とする	
	寛永 9 (1639)	富山藩成立	
戦国	慶長 14 (1609)	富山城焼失。利長は高岡城に移る	慶長期富山城
	慶長 10 (1605)	前田利長、富山城と城下町を整備	
	天正 13 (1585)	豊臣秀吉、越中征討。富山城破却	中世富山城
	天正 11 (1582)	富山城が佐々成政の居城となる	
	天文 12 (1543)	神保長職が富山城を築城	
室町	永正 3 (1506)	加賀一向一揆が越中に乱入	
	応仁元 (1467)	応仁の乱が勃発	
室町		本丸東端に居館を構える	
		荘園「富山郷」が置かれる	

※今後の下層調査により、室町後期以前の富山城前史の発見が期待される。



堀2(南西から)



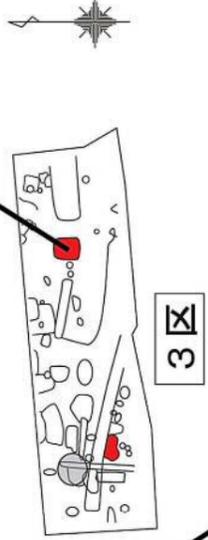
窪地(北西から)



かわらけ廃棄土坑(東から)



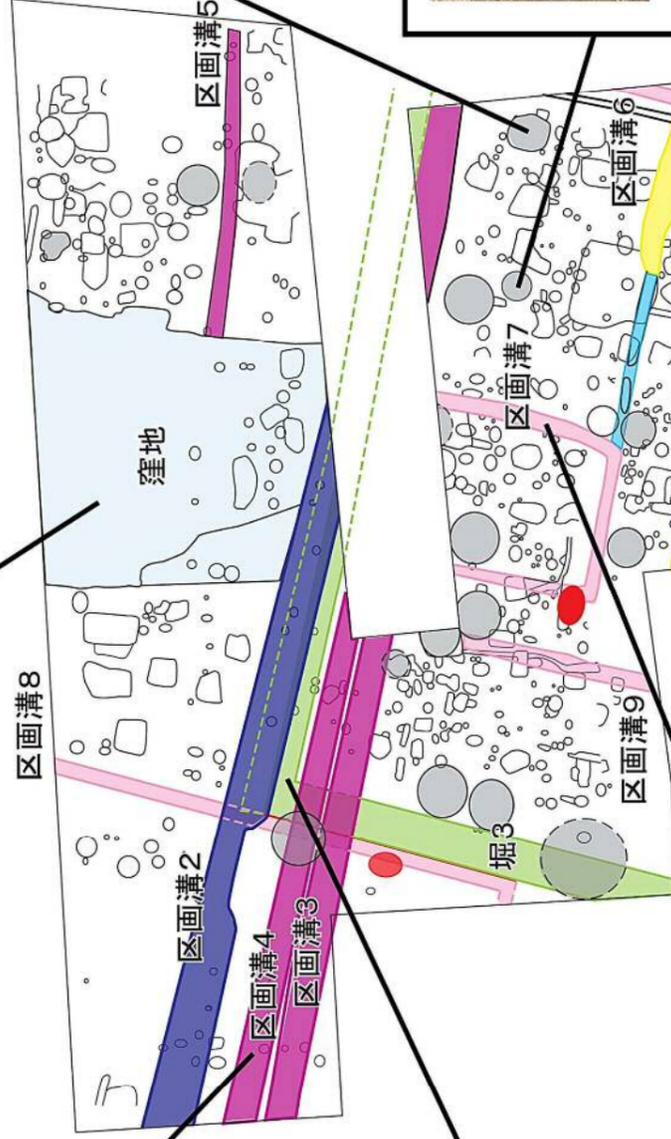
石組井戸(東から)



3区



区画溝2・4・3(北西から)



堀3(北西から)



区画溝7(南から)



かわらけ出土状況

かわらけ埋納井戸(南から)

- 室町後期の遺構 (15世紀前半)
- 戦国前期の遺構 (15世紀後半～16世紀前半)
- 戦国後期～江戸前期の遺構 (16世紀後半～17世紀前半)
- 江戸前期の遺構 (17世紀半ば)
- 江戸前期の遺構 (17世紀後半)
- 江戸後期の遺構 (18世紀～19世紀後半)
- 井戸
- かわらけ廃棄土坑



区画溝1と区画溝6(北から)



富山藩期富山城外堀(南西から)

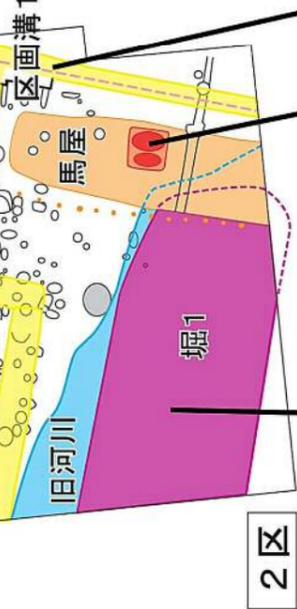


堀1(南東から)



1区

2区



堀1

区画溝1

馬屋

旧河川

堀3

区画溝7

区画溝6

区画溝5

窪地

区画溝8

区画溝2

区画溝4

区画溝3

区画溝9

富山城外堀
(平成26年12月公開済)